



家族連れにぎわう

さんふれあ15周年創業祭

さんふれあ15周年創業祭が6月7日、総合交流ターミナルさんふれあで行われました。菊陽武蔵剣豪太鼓の大迫力の演奏でスタート。菊陽学園のよさこいソーラン節や尚綱幼稚園の器楽演奏、にんじんジュースの振る舞い、スイカ早食いなども行われ、観客は大きな拍手を送りました。大きなスイカを一生懸命食べる子どもたちを保護者は、カメラなどで撮影。お笑い芸人の「もっこすファイヤー」が盛り上げると、訪れた多くの観客の笑顔が会場中に咲いていました。



▲スイカの早食いをする子どもたち

昔話の魅力を人形劇で

人形劇ぶっくる第13回定期公演

菊陽町図書館を拠点に活動する「人形劇ぶっくる」の第13回定期公演が5月31日、図書館ホールで開催され、満員の観客でにぎわいました。

公演は「犬のおまわりさん」の歌でスタート。昔話「なら梨とり」では、人形のかわいらしい仕草に歓声が上がっていました。人気の歌なども披露されると、子どもたちは一緒に歌ったり踊ったりして楽しいひとときを過ごしていました。公演後はホワイエに人形が並び、子どもたちは笑顔で人形と触れ合いました。



▲昔話「なら梨とり」の一場面

子どもガイド大活躍

菊陽南小学校「鼻ぐり子どもガイド」

菊陽南小学校の5・6年生が5月16日、鼻ぐり井手公園でボランティアガイドを務めました。

児童は3・4年生の時に学習した成果を発揮。2人1組で絵や写真を使いながら鼻ぐりが作られた理由や仕組みなどを分かりやすく説明しました。

鼻ぐり井手公園では、4月下旬～5月、ボランティアによるガイドが毎週土日に行われました。要望があればガイドが行われます。詳しくは南部町民センター ☎(292)3200にお問い合わせください。



▲名前の由来を説明している南小学校の児童

交通事故死ゼロを目指す

春の全国交通安全運動

春の全国交通安全運動が5月11日～20日、「子どもと高齢者の交通事故防止」をテーマに行われました。

交通安全の意識を高め、事故防止を目的とした「大津地区交通安全推進大会」が5月8日、合志市文化会館ヴィーブルで開催。交通安全宣言などが行われました。最終日で「交通事故死ゼロを目指す日」の5月20日は、菊陽久保田郵便局前でキャンペーンが行われました。ドライバーにチラシと啓発グッズを配り、飲酒運転の根絶とシートベルトの着用などを訴えました。



▲ドライバーに交通事故防止の啓発グッズを配りました

笑顔の花咲く

4小学校運動会

照りつける日差しの中、5月23日に菊陽北小学校、24日に武蔵ヶ丘小学校、31日に菊陽中部小学校と武蔵ヶ丘北小学校で運動会が開催されました。

それぞれの運動場では、徒競走や技巧走、ダンス、リレー、綱引き合戦、応援合戦、大玉転がし、玉入れなどの競技や演技が次々と繰り広げられました。児童たちは今までの練習の成果を十分に発揮し、一致団結して優勝を目指しました。

菊陽中部小学校の運動会のスローガンは「心と心のバトンをつなぎ、元気いっぱいゴールを目指せ」。赤と白に分かれて、熱い戦いをしました。

6年生と4年生の子どもがいるという保護者は「上の子が小学校最後の運動会でしたが、徒競走で1位になって良かったです。子どもたちはとても楽しそうでした。ぱっちりビデオに収めたのでまた見ようと思います」とほほ笑みました。

晴れ渡る青空の下、児童たちは応援席から力いっぱい仲間を応援。グラウンドには、さらに絆を深めた児童たちの笑顔の花が咲きました。



1練習の成果を発揮し息の合った演技をする児童 2黄色い帽子を被った児童の中から自分の子どもを探して仲よくゴール 3元気い声が響く応援合戦 4組体操をする児童

みんなでつくる安全・安心のまち

熊本県防犯協会連合会の定時総会

熊本県防犯協会連合会の定時総会が5月26日、熊本テルサで開催されました。同連合会は、警察や町、ボランティア団体などと力を合わせ、犯罪のない明るく住みよいまちづくりを目指して活動しています。

総会では地域の安全・安心のための防犯活動に功労のある団体への表彰が行われ、本町からは菊陽北小学校区青少年健全育成協議会(川端フジノ代表)が受賞。川端さんは「今後も地域全員で声を掛け、子どもたちの見守り活動を頑張ります」と話しました。



▲代表の川端フジノさん(右)と副代表の鳥栖孝信さん(左)

ごみの減量を目指す

平成27年度菊陽町環境美化推進委員会議

平成27年度菊陽町環境美化推進委員会議が5月22日、菊陽町役場で行われました。

環境美化推進委員は地域住民に対し、ごみの情報提供や分別のアドバイス、ごみステーションを見回って違反ごみの有無を確認するなど住民と町をつなぐ地区の代表です。会議で町は委員の活動内容とごみ減量の補助金制度、本町のごみが増えている現状などを説明。委員は地域のごみ問題やごみの減量化、リサイクル活動の重要性を再認識しました。



▲ごみ減量について説明を受ける環境美化推進委員